

私の留学体験記

広島県立福山誠之館高等学校 2年 林 里音 (はやし りのん)
留学期間 令和5年12月9日(土) ～ 12月23日(土) (15日間)
留学先 ①Oslo Handelsgymnasium 高校 ②Amalie Skram 高校
(ベルゲン・オスロ、ノルウェー)

<Osloでの生活>

ノルウェーの首都であるOsloの街は一面雪で真っ白で、その中に赤や黄色のカラフルな家、お店、美術館、学校があちこちにあってまるで夢の世界のようでした。そんな素敵な環境に囲まれながら、Oslo Handelsgymnasium 高校を通して沢山の異文化交流ができました。3日間現地の生徒と共に英語で授業を受け、放課後には日本語クラスの皆と集まってミニゲームをしたり、その後は友達や友達のホストファミリー達とピザを食べに行ったりもしました。私はノルウェーに留学する際、事前に英会話に通うなど特別な対策はしていなかったので、最初は現地で話される英語のスピードに圧倒され、ホストファミリーと会話が思うように続かず、挫けそうになりました。決して諦めず、聞き取れなかったらもう一度言ってもらったり、自分の知っている単語や文法を使って、日本で友達に話しかけるような感覚で話したりすると自然と距離が縮まりました。

英語の授業の時、ペアの女の子に英語は好きかと聞かれて「好きだけど上手く話せない。」と答えると、「だけど私理解できているよ!」と言ってくれたことが心に残っています。大事なものは「伝えようとする意思」と「理解しようとする気持ち」なのだと思います。Osloでの生活はたった3日間ですが、この先忘れることのないくらい私にとって英語に対する姿勢を変えてくれた3日間でした。

<姉妹校との交流>

姉妹校であるAmalie Skram 高校の日本語クラスの生徒達は皆さん、とても親切で、クリスマスマーケットやお土産が買える店、有名なタピオカショップなど色んな所に連れて行ってくれました。Amalieの生徒達とコミュニケーションをとることがとても楽しく、考えるより先に言葉が出てくるようになりました。しかし、それによって「これ英語でなんて言ったらいいんだろう...」と会話の途中で詰まってしまうことがよくありました。しかし、その都度Amalieの生徒達が優しく教えてくれたり、一緒になって考えてくれたり、皆のおかげで英語において失敗することへの恐怖がなくなりました。お別れの日には皆泣いて悲しんでくれました。私も離れるのが本当に辛いほどたくさんさんの友達と思い出を作ることができました。

<ホームステイ先での生活>

歳がひとつ上の女の子と、その女の子のお母さんの2人が私をホストファミリーに受け入れてくださいました。ノルウェーで有名なサーモンを夜ご飯に作ってくれたり、リビングで2人で日本のアニメを見たりしました。女の子が自分の部屋を私に貸してくれて、部屋にはたくさんプレゼントが用意されていてとても嬉しかったです。私が2人にお土産を渡す時、一つずつ紹介しながらプレゼントすると、2人共日本の食べ物や文房具に興味津々で、嬉しそうに受け取ってくださいました。ホームステイ最終日にはノルウェーで有名なクリスマスカレンダーを皆んなでめくりました。

<今回の留学を終えて>

今回の留学を通して、私の英語に対する考えが変わりました。今まではただ大学受験のためだけに勉強していましたが、ノルウェーで友達ができて、世界をとっても身近なものに感じる事ができたおかげで「世界中の人とコミュニケーションをとる」ためにも勉強をしようと思うようになりました。今でもノルウェーの友達と連絡を取り合っているので、「このフレーズを今度使ってみよう。」などと考えながら、楽しく英語を勉強しています。英語を好きになれたこと、友達ができたことが私の中で大きな変化です。留学に行かせてくれた両親に感謝の気持ちでいっぱいです。